

平成24年度第1回山形駅西口拠点施設検討有識者懇談会議事録

日時：平成24年11月27日（火）

会場：山形グランドホテル「白鳥の間」

【貝山委員長】

議事進行役を務めさせていただきます。皆様のご協力よろしくお願い申し上げます。私は西口の広場というべきなのか空き地というべきなのか、東京から来まして駅に降り立って、西口を見たときにどうなっているんだろうかこの町は、そういう驚きを受けました。イギリスにはコモンズという共用の広場があります。あれよりもかなり広いです。どうお使いになるのだろうか、と常々疑問に思っておりました。かつてここには、文化施設が造られる予定だったんだけど、様々な事情があって今中断しているという話を聞きました。山形県の玄関口であり、良い印象を与えるという事は非常に大切で、山形に足を運んでもらう、そのために玄関先はきちんと整備しておきましょうと、少なくともそういうことが必要になってくると思う。やっとそうした動きが県庁の中で始まった事で大変嬉しく思っております。私自身、芸術とか文化に全く疎いもので、本来この席にいる事自体どうかと自分自身思っているのですが、前にさいたま市で、PFIの推進の委員長をおおせつかって、5～6年そういう職に就きました。様々な施設をPFI、後で議論になるかと思いますが、民間の知恵・工夫・お金を利用しながら公共施設を作っていくという手法ですけども、さいたま市の中でもいくつかそういうことをやっている。また、さいたま市ではないのですが、例えば刑務所をPFIで作る、建設・刑務所の維持管理・運営を全部民間の会社がやるという事も世の中にはあります。先ほどの知事のお話にもありましたように、財政状況が急激に好転しているわけではありませんので、依然として厳しい状況の中で、文化施設を造るという事のためには、知恵を工夫しながら、色々な知恵を出し合いながらやっていくと、いいやり方が見つかるのであろうと思っております。そういうことを期待したいと思っております。この懇談会で協議をして、決定をしてそれを答申するという類のものではございませんので、出来るだけフリーに皆さんからお話いただいて、こういうことをやったら良いんじゃないか、こうやったら山形らしいいいものが出る、とか、或いは、県民が喜ぶ、とか、豊かな発想をここでご披露いただきまして、それを参考に良い文化施設をつくっていただく、その礎にさせていただければ、と思っております。そういうことで、今日を含めて二回ございますが皆様のご協力をお願いしたいと思います。

【貝山委員長】

それでは時間も限られておりますので、早速協議に入りたいと思っております。お手元の山形駅西拠点施設検討有識者懇談会の開催についての資料をご覧ください。この懇談会の役割というものをもう一度確認しておきたいと思っております。この懇談会は、山形駅西拠点施設について先行してオープンした周辺施設、具体的に言いますと、霞城セントラルそれから山形テルサがありますが、そことの関わりを含めて、今日的な意義を再確認するために、検証成果を土台として皆さんにご意見を頂き、施設整備のあり方について検討を進めていきたいという懇談会であるという事です。繰り返しになりますが、二回予定をしております。実施スケジュール表がございますのでご覧頂きますと、二回目は二月となっております。一回目二回目とざっくりばらんに皆さんにご自由にご発言頂きたいのですが、ある程度区分けをしておきたい。必ずしも拘泥するつもりはございませんが、可能ならば、一回目は文化施設としての機能について、第二回目は、山形駅西拠点施設としての機能、それから防災拠点機能、再生エネルギー導入機能等についてご議

論いただけたら、と思っております。ただし、今日お集まりの皆さんは、本当に多彩な分野からおいでいただいておりますので、議論の目安と考えていただきまして、途中、二回目に予定されているようなテーマについてご発言いただいても一向に構いません。先ほど申し上げましたように、この駅西都市再開発事業用地は県都中心部に位置する貴重な公共空間です。今日的な時代要素を踏まえ、文化を核とした都市拠点施設にはどのような機能が求められるのか、将来必要とされるものはどういうものなのか、そういうことに関わって、ご発言をいただけたらと思っております。先ず始めに、文化施設としての機能について、および県政アンケートの結果につきまして、概要と論点を事務局からご説明いただきたいと思います。

【事務局】

山形県庁県民文化課の今野と申します。委員の皆様から西口の拠点施設の在り方について、あるいは機能につきまして、ご意見を頂戴するにあたり、五点ほどご説明、報告をさせていただきたいと思っております。お手元にまず山形県県民会館の概要という二枚とじの資料、文化施設に関する庁内研究会検証結果報告書という若干厚めの冊子、それからその概要を書いた二枚の資料、先ずこれを中心に説明をさせていただきたいと思っております。はじめに現在の県民会館の状況という事で「山形県県民会館の概要」の資料をご覧頂きたいと思っております。設置目的の一行目、山形県県民会館は、県内最大の多目的ホールで、様々なコンサートに活用している状況です。施設の概要は、開館が昭和 37 年、今年で 50 年と、大変長い間親しまれている施設です。平成 17 年に、非常に古くなったため、この施設を長く使おうということで、耐震化工事を行っています。耐震工事をしましたので、建物本体は、あと 20 年くらいはもつのではないかと、現時点からはあと 10 数年はもつ、ということです。ただ、中の設備関係は相当傷んできている状況です。それから大ホールということで、約 1500 人ほど収容できる施設でございます。利用の状況は、平成 21 年度から 23 年度までの数字では、年間約 15 万人ほどの利用がある状況です。「庁内研究会検証結果報告書」をご覧頂きたいと思っております。25 ページに県内の主な文化ホール一覧を示しています。市町村で造っている文化施設等を含めて載せています。座席数の欄、1000 名を越す施設が県内で 4 つ、地域の主要な都市に配置されており、県民会館が一番上、1500 名ほどの座席数があります。設置年を見ていただくと、県民会館が昭和 37 年で一番古い施設です。26 ページに、東北各県の中核文化施設の概要を載せています。基本的には各県の県民会館を示していますが、青森県は県民会館はありませんので、青森市の文化会館を示しています。メインホールですけれども、1500 席程度というのが宮城県と山形県、そのほかの県につきましては 1800 から 2000 席ほどの収容が可能です。ただ、宮城県につきましては、仙台市の方で 2000 人を収容出来る施設がありますし、福島県におきましては郡山市といわき市の方で 2000 名程度収容要できる施設があります。続いて、文化施設の検討経過について説明します。「文化施設に関する庁内研究会検証結果報告書の概要」の二番目に、新県民文化施設の整備に係る検討の経緯を表にして示しています。知事から話がありましたように、県では平成 4 年に新しい文化施設を造るという構想を策定しています。平成 11 年、この段階で基本設計を策定しました。平成 15 年に国民文化祭という全国的なイベントを予定しておりましたので、それに間に合わせようと設計を組んだのですけれども、平成 14 年に基本設計の修正があり、平成 15 年度までには出来なかった、ということです。平成 17 年に財政事情が厳しいので、ハコモノ整備は行わないという方針により、計画が凍結された経過です。基本設計、基本設計の修正作業を行ってきましたけれども、そのときの論点、施設の概要について説明します。「文化施設に関する庁内研究会検証結果報告書」の本文 22 ページに新県民文化施設の鳥瞰図を比較する図面があります。上が平成 11 年の基本

設計、下段が、平成 14 年の基本設計を修正したものの鳥瞰図ですけれども、全体像につきましては山形駅西にふさわしい風格のある外観という事で、修正をかけていました。23 ページは大ホールの内部になります。基本設計では客席が三階建て、上から見るとステージを中心に扇形のホールが想定されています。修正後では 4 階建てバルコニー、上から見ると馬蹄型、オペラハウス風と呼んでいます。そうした形に修正をかけています。次のページはギャラリーの比較ですけれども、ガラス張りの大きな空間を準備しておりましたけれども、修正はガラス張りの空間を取りやめてコンパクトな感じに直しています。20 ページと 21 ページですけれども、図面ではなく、それぞれの仕様、面積に関する資料で、左が平成 14 年、右が平成 11 年の比較です。変わった点があり、駐車場の面積、台数は、基本設計で 310 台の駐車場の面積でしたが、修正後は 400 台で、少し多めに駐車場を準備しています。大ホールについて、形状を 4 階バルコニー、馬蹄形のホールに変更しています。展示室、ギャラリーは平成 14 年では空欄になっていますが、当初の予定していたものを取りやめたということです。先ほどのイメージ図の通りガラスの空間をやめたという経過です。この辺までが今まで修正をかけた部分ですが、繰り返しになりますが、駐車場の規模をどうするか、座席数はそれぞれ 2000 の設計でございましたが、このままでいいのか、或いはホールの形状も、現在の馬蹄形オペラハウスでいいのか、ということも一つの論点になってくると思います。そのほか、この資料には記載してありませんが、舞台裏、バックヤードの導線、例えば全国ツアーのコンサートを行うと 11 トントラック何台も機材を運んで搬入するといった状況もあります。そういった実態に十分対応できるものかどうか、舞台裏のエレベーターなど、荷物を運ぶ、人を運ぶ装置が十分に配置されているのか、託児に必要な機能、女性用のトイレが不足しがちということがありますので十分な確保が出来ているのか、或いは高齢者障害者への配慮が十分出来るか、といったところが論点になってくると思ってございます。その辺も含めて、皆様からご議論いただけたらと思います。それから、構想が策定されてからの社会情勢の変化に触れたいと思います。「文化施設に関する庁内研究会検証結果報告書の概要」、社会情勢や周辺環境の変化の主なものを整理してはございますけれども、このうち「(1) 山形駅西地区の変化」につきましては、山形駅の西口にスーパーもございませし、ビジネスホテルもだいぶ建ってきたことで、大きな変化があると見ております。「(5) 人口構造の変化」では、人口も減少するという事もありますし、高齢化社会が大きな課題になってくると思ってございます。「(7) 財政状況」ですが、なかなか好転しないという状況もありますので、一時的な集中投資を避けることも検討していく必要があると考えています。包括外部監査の指摘、これは自治法に基づき、行政としてしっかり仕事をやっているかという外部の監査があるわけですけれども、駅西の土地につきましては有効活用されていないのではないかと、といった指摘も頂戴しています。「(13) 公共施設に求められる今日的機能」は、昨年の大震災で、防災拠点とか減災機能のあり方、或いは再生可能エネルギーの活用方法といったことも交えて十分配慮すべきではないかという意見もありますし、山形県の玄関口とでもありますので、賑わいや山形らしさを創出する機能を検討していくべきではないかということが論点としてあるのではないかと考えています。「平成 24 年度県政アンケート調査報告書」は、県内の 20 歳以上の男女 2500 人を対象として調査したものです。今回の調査のテーマの一番最初に山形の文化についてアンケート調査をしました。問 1 の②・③が、公共ホール・美術館・博物館といった施設関係に対する問いですが、文化施設が充実しているか、との問いかけに対してあまり充実していないというご意見が多いということです。③文化芸術活動が出来る施設が充実しているかどうか、これもあまり充実していない、というご意見が多い。下の方の①～④までは施設面での問いかけです。⑤からそれ以下は、ソフト面での問いかけで、施設面の問いにつきましては、③の多目的な大ホールを擁する施設の整備が必要

であるという意見が、この中では多いという状況です。50 ページは、駅西の新拠点施設に要望する機能で設問設定をしました。上から順にいきますと、地震や災害発生時に避難のよりどころとなる機能、子どもの遊び場、託児施設、県産品の販売コーナー等の順番でご要望があったという状況です。以上、非常に簡単ですが、議論の参考にいただければと思います。

【貝山委員長】

ありがとうございました。多岐にわたってのご説明だったので、どのようにこれから皆さんと議論していこうか迷っているのですが、まず、これまでのいきさつをご存知の方、今の事務局側の説明に加えて何かございましたらお話を頂きたいと思うのですが、伊藤委員いかがでしょうか。これまでの経緯も含めて何か付け加えるようなことがございましたら。

【伊藤委員】

基本設計を見ますと、かなり煮詰めてある計画が出ていていると感じておりますので、やはりこの何年かの間で相当いろいろな事をやられているのではないかと思います。ですから、いまさらその中身を議論するよりも、これを如何にスムーズにこれからの整備計画に乗せるかが必要なのかな、と率直に思ったところでございます。

【貝山委員長】

本間委員いかがでしょうか。

【本間委員】

私は、皆さんのご意見をお聞きしたい、という気持ちで今日は出席させていただきました。しばらく動きが無かったというところに、先ほど議長になられた先生のお話を聞いて、建設的な前向きな方向にこの懇談会がある事を感じ、大変嬉しく思っております。議長の先生もお話されたように、駅周辺というのは山形の顔であります。山形駅に限らず周辺の景観を見ると、どこの町か分からない。山形の風土性と位置して捕らえるならば、あまり風土性も建築のデザインに生かされていないように思いますし、どこから見ても、特に駅ホームから見ると、これが山形かと思われるのは残念だと思います。東口の方もそうですが、次の時代の山形のために、駅西口は山形の風土性を捉えた町並み空間を作っていかなければならない。作る側に立っている私は、そういう責任を感じます。山寺を見て、ライシャワー大使が昔、「日本には山の向こうにもう一つの日本があった」という言葉を残しておりますが、「山形に来たらもう一つの日本があった」というような駅周辺の空間であって欲しいと思います。生意気な事を申し上げますと、どこの都市も同じような都市だとよく言われますが、機能を満たすものは全て美であるという哲学が近代建築運動で広まってまいりまして、その結果どこも人間の欲望を満たすために造れば行き着くところは同じような建築のデザイン都市になってしまう、という事もあるかと思いますが、いまや時代は少し変わりつつある。我々が後世に残さなくてはならない建築、都市空間の見本はあまり無いではないか。山形駅西は他の都市から見れば整備は遅れているかもしれないけれども、これからつくるものにはそういう責任を感じるし、多くの県民の皆さんの意見をお聞きしながら、他の都市に無い、遅れの美学と言っては何ですが、そういう山形の風土性を捉えた都市空間であって欲しいと。幸いに山形は大正5年にできた文翔館、旧県庁舎、議事堂、それから明治11年に出来た旧済生館の3層楼、そういう歴史的な遺産をもってあります。先人に思いをはせながら、ものまねで無い、独自の文化を作り上げなくちゃならないのではないかと。聞の文化

と言っでは何ですが、かつては裏日本と言われた山形。いまや裏ではないとそういう気持ちを持ち私は地域の建築家として強く持っておりますし、他の都市に無い山形の文化を作り上げていただきたい、皆さんのお力を頂いて作ってかなくてはならないのではないかと。それには今日ご出席の皆さんのそれぞれのお立場の顔ぶれを拝見していい意見をいただけたら、私がこれから実施案に関わっていくという事が決まったわけでもありませんけれども、基本設計をさせていただいた者の立場から言うと、県民総意の上でこれは作っていかなくてはならないと思います。

【貝山委員長】

ありがとうございます。文化活動を実際になさっているサイドからご意見いただきたいので、藤野先生いかがでしょうか。

【藤野委員】

私は大学の外では山形オペラ協会に所属し、来月の12月16日の、市民会館での「フィガロの結婚」というオペラを目前に、今練習しているところです。それで今回のお話が出て、ああやっという時期がまた来てくれたかと、待ちに待っておりました。平成12年の委員会の報告書の中に私の名前もありますけれども、思い起こしてみますと、その頃まだ演劇の方も委員の中にいて、音楽のホールと、演劇用のホール両方つくろうという話もあった。その後、音楽の方にシフトして、基本構想の修正した絵はちゃんと見てなかったものですから、最終的に、平成14年にこんなすばらしいものになっていたのだと思うと感慨深いものがあります。この通りになるかどうかは別にしても、そういう話がもう一度再燃して、知事の先ほどあいさつの中にもありましたけれども、追い風になってくれれば良いと思っております。音楽をやっているものの立場から言いますと、例えば、山形交響楽団という地元のすばらしいオーケストラはありますが、聞きたいオーケストラ、例えば海外からやってくるような編成の大きいオーケストラとかオペラとかミュージカルとかバレエとかいろいろ山形に来て欲しい演目がありますけれども、素通りする場合があります。入れ物の関係でという事も聞いた事があります。もったいない、なんとか駅西に早く建たないかと思っておりました。私達が今音楽会をやるときに、全国的なイベントといいますと、合唱コンクールとか、吹奏楽とかありますけど、現在は山形でそういう規模の大会を受け入れる時はどうしても県民会館になります。現在の県民会館の場合ですと、キャパも1500規模です。それから駐車場の問題とか、使う方達は色々窮屈な思いをしてやっているのが現状です。私達が市民会館や県民会館を使うときに一番思う事は、舞台もそうですけど、客席に座ると客席の椅子のサイズがひざがぶつかるとか横の関係とかで、体のサイズの大きな方ですと座っているのに非常に窮屈なのです。ところが、新しく出来たテルサとか、酒田の希望ホール、それはもう新しい規格ですので、非常にゆったりと見られる。そういう観点からすると音楽を鑑賞する、あるいはバレエなどを鑑賞する時にお客さんの立場からして、ゆったりと鑑賞できるような環境を整えたホールが、早く欲しいと思っておりました。自分達も使いたいけれども、お客さんが「心の栄養を補給」するのにあそこに行ってみようと思うようなホールが早く作られるといいと思っております。もちろん音楽的なソフトの面では色々提言すべきところはしたいと思っております。以上です。

【貝山委員長】

どうもありがとうございます。もう一方文化活動を担ってらっしゃる安堵委員ご発言をいただけたらと思います。

【安堵委員】

私はバレエを実際踊っている立場だった時代もありますし、今は生徒を踊らせる側でもあるのですけれども、全国各地の会館とか劇場で踊って、山形に戻ってきたときに、環境というか設備そのものが足りないという思いが凄くあります。例えば海外のパリのオペラ座なんかですと、オペラ座の周りに本当に沢山の人が集っている。常にそこに人がいる状況で待ち合わせ場所にしていたりとか、コーヒーを飲んでいたりとか。例えば山形の県民会館だとあそこの噴水のところに人が集っている事があまり無い。だから、人が集まりたくなる劇場であって欲しいと思います。現実的なことでいうと、例えば舞台装置のドロップであるとか。今現在の県民会館、市民会館ですと、ドロップ幕をその比率で全部使う事が出来ないのです、上を切るか下を切るかで妥協するとか、お金をかけて造るかという選択になってしまっている現実もあるので、箱の大きさを標準にしていたらよかったらよいと思います。この設計図通りのものが出来たら本当に心から嬉しいと思います。

【貝山委員長】

どうもありがとうございます。そろそろご自由にご発言いただきたいので、もうお一方ご発言していただきたいのですが、山形放送の園部委員さん、県民の声というものが文化施設に対してどういう風になっているのか、先ほどアンケートの結果はご報告いただきましたけれども、マスコミの方から見てどうだったのか、ということをお聞きしたいです。

【園部委員】

今回、この会合がもたれたという事に対して、大変喜びを感じています。山形県都として、それにふさわしい文化施設が無いというのはいかに山形県民、山形市民にとって残念な事であったのかという事を、私もしみじみと感じております。先ほどのアンケートにもありましたが、そういう意味でも是非この計画が実現されるようお願いしたいと思います。今日私は放送局という立場と、山響の理事長という立場もあって、先ほど藤野先生からもお話ありましたけれども、若干施設についてお話させていただきますと、今一番沢山の客さんが入るのは県民会館なのですが、藤野先生のお話の他に、致命的に問題なのは音響効果が悪いという事です。現在の飯森音楽監督も含めてなのですが、著名な指揮者あるいは交響楽団は、県民会館での演奏はまずやらない。オーケストラの音が聴衆に伝わらない、ということで大きなコンサートはできないというのが現状です。山形テルサがあるのですが、テルサは800席ぐらいということで、山響の公演にしても、一回で会員の方々皆さんに演奏を聞いていただくのには足りないのです、二回演奏にならざるをえない。そうしますと、経費がかかってまいりますので、一回公演で定期演奏会が出来るような会場が欲しい、というのが切実な願いでございます。歌謡曲とかポップスですと電氣的に音量調節ができるわけです。ところがクラシック音楽は生の演奏ですから、生の楽器の演奏が聴衆に伝わるということからすると、残響の問題で、今の県民会館では難しい、というのが実情でございます。そしてまた駐車場が無いという事も致命的なことで、山形市外からこられるお客さんも、駐車場が無いから行けない、という声も非常に大きく聞いております。それから放送局として色々なイベントもやってきたわけですが、現在の県民会館では、なかなかイベントが難しい現状を、二点ほどご紹介します。一つはやはりキャパの問題です。現在のキャパ、約1500ですが、それなりのビッグアーティストを呼ぶ場合に、たとえば2000の会場でも1500の会場でもギャラは同じです。そうしますと1500ですとどうしてもチケットが割高になる。例えば、仙台で5000円で出来るものが山形で8000円だとか1万円になりますと、お客さ

ん入っていただけないのではないかという事で断念した例が沢山あります。そういう意味で、何とか1800ぐらいのキャパが欲しいという事を思っております。もう一点は舞台の構造上の問題です。山響の所では音響効果という話をしましたが、それ以外のイベントをやる場合、例えば一昨年にディズニーライブというステージものをやったのですが、これも本来ならば県民会館でやるべきだったのですが、舞台の奥行きが小さくて主催者側からこれでは出来ないと言うことで、やむをえず市の総合スポーツセンターでやりました。そうしますと、様々な問題が出てきて、必ずしもお客さんに満足いただける公演が出来なかったというような事もあります。また、例えば著名な歌手に、プロモートしたところ、他県ではステージで様々なセットを使っているけれども、ここではこれしか飾れない、ということだ思ったような効果が出せなかったと、公演が終わってからの声も頂いているというようなこともあります。また宝塚公演も、楽屋からの廊下が狭すぎてドレスを身に着けた役者が通れない、との理由で断られたという例もあります。それ以外にも、会場に来るお客さんで子育て層の方も沢山いらっしゃいますけれども、子どもさんを預かっていたところがないので行けないというような声も沢山聞いています。我々としては放送局という立場から、様々な演奏会その他を招致したいのですが、会場の都合でそれが出来ない、と非常に残念に思っているところが沢山ありますので、是非新しい文化施設を造っていただければありがたいと思っています。

【貝山委員長】

ありがとうございます。どうぞご自由にご発言いただければと思います。

【古内委員】

「山形駅西都商店会」、「えきさいと」と読むのですけれども、読んで字のごとく駅の西側にある商店会、今まさにお話の真っ只中にある商店会でございます。昔山形駅西側は駅裏と言われまして、山形市が施工主となって、山形駅西地区土地区画整理事業が始まったのですけれども、その中に文化施設をつくるということでテルサ、それから県の文化施設という構想が出てきました。私等もよく分からなかったのですけれども、土地区画整理事業というものに対しては、単純に道路を切って上下水道の設備をして、6メートル以上の所に一般住宅が張り付けば後は公園をつくれれば良いのだという時代に合わないような考え方を市は持っていました。テルサは出来上がりました。県では、平成17年に残念ながらハコモノは造らないという事で、最終的に空き地のままの状態です。私達駅西地区の商店街、地区の人間としては、とにかくあそこに県の文化施設が出来ない限り、この土地区画整理事業は終わったと思っています。必ずあそこに建ててもらわなければ、私達は何のためにあそこに減歩をされて土地を提供したのか、という事が分からなくなってしまうということがあります。もう一つ、山形の霞城公園の中にかつて体育施設がいっぱいありまして、東北でも結構有名な体育施設で、テニスコートは東北で一番安全かつ水はけがいいテニスコートだったのだそうですけれども、今は公園になっています。体育施設が次から次へとなくなっていますし、野球場も公式では使えないような状態です。体育施設も駅西側からほとんどなくなってきました。文化施設も無いと言う状況では私達駅西の人間が、何のためにあそこに土地を提供したのだろうと、土地区画整理事業って何だろうかという事を改めて考えざるを得ない状況になってきていますので、とにかく人がいっぱい集まってくるような施設、楽しく集まれる施設を造っていただきたいと思っています。

【大谷委員】

私達は、県内の芸術文化活動に取り組んでいる人たちの集まりでして、県民会館を始め、テルサ等を活用させてもらっている側です。事務局から報告ありましたが、先ほどの概要を見ていただきたいのですが、この話は平成4年に始まったということですが、実はこの年山形県は国体をやった年なのです。大変盛り上がり、スポーツの祭典をみんなで成功させたという年です。その年に、一方文化も頑張ってみよう、ということだろうと思いますが、ここにあるように基本構想が出来て始まった。スポーツだけでなく文化も祭典をとということで、平成15年に国民文化祭というものを県で誘致して開催した。そのときに私達、芸術文化に関わるものは大いに頑張りました。国民文化祭を目指して新しい会館を造って全国から来た方々を招いて、盛大にやろう、という事で県も取り組んでくれたのでしたけれども、実際はこれができなかった。こういう流れから見ると、私達芸術文化活動に直接関わっている者からすればこのたびの動きは大変嬉しく思っております。そこで、私達の今一番大きな課題は何かと言うと、次の世代をどう育てるか、ということです。芸術文化のさらなる高みに向かって取り組んでいる方々も、皆さん高齢になっていまして、その後を受け継いでくれる方をどう育てていくか、という事が最大の課題です。それを考えたときに、先ほど藤野先生から具体的な話がありましたが、一つの例を申し上げますと、合唱連盟というものがございます。これは、中学校から一般まで入っている音楽組織で、全国規模の合唱コンクールが最大のイベントです。これは皆さんご存知かと思いますが、山形西高が何度も全国制覇をして頑張った時代がございました。ところが現在全国大会は山形では出来ません。はじめから外されております。全国がいくつかのブロックに分かれておりまして、東北ブロックで次やってみようといったとき、各県の代表が集まって、全国の合唱連盟の方も入って話をするとき、山形県は第一次候補にもなれない。なぜかというところ、老朽化した県民会館しか無いからです。1500席では基準から外れるのです。最低1800席、2000席ぐらいの大きいホールが必要、それに加えてリハーサル室等の諸条件を完備しているところということになりますと、残念ながら東北の中で、山形県は外されてしまうのです。さっき興行面の話も出ましたけれども、県民会館が23年にやったコンサート等の実績、利用状況が出ておりましたけれども、若い人たちが熱狂的に集まってくるような催しは、一つも無いというところ、オーバーですが、無い、そういう文化状況にあります。これが現実です。そういうなかで若い人たちが、これから山形県を背負うべき立場の人たちが、そうした芸術文化に触れないで、一体どういう大人になるか、ということを考えてときに、大変寒々とした気持ちになるのです。ですからなんとしても、厳しい財政ではあると思いますが、これから先のことを考えて若い人たちを育てていくためには、世界とはいかなくとも全国レベルで行われていることから、外されるような貧弱な文化環境から脱しないと、子ども達が良いものに触れて成長するという事が考えられない最悪な環境にあります。そういう意味では、是非これから私達は頑張っていきたいと思っておりますが、皆様からもご協力頂いて、子ども達に夢を与えるような環境を作っていきたい。経過について申し上げますと、私達芸術文化会議は、修正案には反対です。なぜかというところ、基本設計にはあったのですが、修正案の中ではギャラリーが削られております。私達は舞台を中心としたものだけではなくて、ギャラリーも一緒にして、人が集まってくる、賑わう芸術文化ゾーンになる施設を是非お願いしたい。私達は、今、山形県芸文美術館というものを県から委託を受けて七日町でやっておりますが、年々申込みが増えております。つまり創作作品を発表する人が増えている。それを見に来る人もしたがって増えております。いわゆる舞台だけですと、リハーサル何日間して一回、二回発表するという日程が組まれます。ギャラリーも会館の一部にあれば、地域の人々が沢山集まってくる、賑わいが出るだろうと私達は思っております、県にも要望をしてきたのですが、オペラが可能な劇場を柱とした修正案からは外されたという事情があるという事を申し

上げておきたいと思います。ぜひ私達は 1800～2000 席規模のホールと、ギャラリーがある施設をお願いしたい。

【貝山委員長】

どうもありがとうございました。ほかにご発言ございませんか。青年会議所の方から何かこういうこととして欲しい、とか挙がってますか、ご発言いただきたいのですが、柴崎委員さんお願いします。

【柴崎委員】

青年会議所で県の代表をしております柴崎と申します。自由な発言と申されましたし、素人代表、言わば県民代表だと思ってお話をさせていただきたいと思うのですが、この会場に来るまでは、西口の拠点施設を検討する会だと伺っておりましたので、なぜ文化施設ありきで話が進んでいるのか、凄く疑問を感じながら来たというのが正直な気持ちでした。文化も大事ですが、山形に無いものを考えたときに、例えば全天候型のスポーツ施設であったり、様々なことが考えられると思う中で、なぜ文化なのだろうと思いながらこの会場に来させていただいたところ、ここまでの皆様のお話をお伺いし、ああなるほど、と十分とは言えないにしても理解を深めることが出来ました。土地区画整理事業があった中で、様々な流れがあった事も理解をさせていただきましたし、現状の山形県の置かれている文化施設の不備、足りない部分も様々な専門家の方々のお話をお聞きして、なんとなく理解をする事ができました。一番なるほどと思ったのは国体の、スポーツの盛り上がりがある中で、文化施設といったものもあわせてもっともっと盛り上がっていききたいという背景が平成の一桁代の頃にあったという話。本当に歴史を知らずに、この席に座らせていただいたのかと恥ずかしく思うくらいにありがたい知識を頂戴したと思っております。是非県民の皆さんに、文化に触れるそんな機会を提供していけるような、先ほどございましたように様々な複合的な施設の中で、文化を県民に向けて発信できる、もしくは、東北中に発信できるような、山形に行けばあれがあるというような、山形らしさをもった施設があれば、本当に県民のためになる、県民に喜ばれる山形の駅西になるのではないかと考えております。一つ会議のあり方についてお話をさせていただければ、今日なぜ県民会館の会議室で開催しないのか、と素朴な感想でございます。おそらく様々な事情があったのでしょうか、老朽化なのでしょうか、狭いのでしょうか、寒いのでしょうか、暗いのでしょうか。よく分かりませんが、そういうところでやれば、例えば舞台装置の話、私素人なので聞いてもやっぱり分からないので、出来る事とか出来ない事とかあるのでしょうか、そういうものを見せていただければ、もっと理解が深まったと、生意気な事を申し上げて申し訳ないと思うのですが、会議のあり方についてはそのように感じました。以上でございます。

【貝山委員長】

どうもありがとうございました。ほかにごございませんでしょうか

【大泉委員】

大泉と申します。専門家の立場と言うには、私もそんなに知識があるわけではないのですが、建築士会で、2年前に山形で全国大会を開催した時のことです。全国から 3500 名ほどの参加者が集まったのですが、県民会館では入りきれない人数でしたので、県内において一番広いという落合のスポーツセンターを利用させていただきました。そのときは、10 月の中旬ごろだったのですが、幸いにしてすばらしい天候に恵まれ、外でのイベントも十分に行えましたので、大会としては、全国から集まってきてくださった方

に大盛況に終わった形にはなりましたが、施設が十分で無いために仮設費等が加算になり、1600万円ほどを充当しなければなりませんでした。限られた予算枠の中で、もしあの時に、これから計画される文化施設のような良い施設がありましたら、もっと素晴らしい大会になったのではないかと凄く残念に思っているところです。

それから、個人としてですが、山形は観光においても食においても、そして被災も少ない、本当にいいところだと思うのですが、残念なことにそれがなかなか他県民の方に伝わっていないと思います。また、県民は、コンサートだ、ショッピングだ等、どうしても仙台に行ってしまう傾向にあります。今仙台と山形では、バス運行がかなり多くなっていますし、仙山線も利用して、中高生大学生はもちろん、多くの人が休日に仙台のほうに出かけて行きます。コンサート等は帰りが遅くなるにもかかわらず、わざわざ出かけて行きます。山形ではやっぱり現代のアーティストのコンサートが無いという状況だからだと思うのです。EXILE 規模になるとやっぱり全天候型のものになってドーム会場になると思うのですが、抽選でないと券が購入できないということでも、仙台は勿論、東京や、札幌開催の入場券を求めて葉書を出す。我が家でも、子供が、東京会場に外れて札幌会場に当たったのですが、旅行ついでに行つてこようということで、楽しみながら札幌に行つてきました。山形においても、旅行ついでに来て頂いても、いいところが色々あるのに、残念ながら十分に人を集客できていないと思います。駅西においても、県内の人だけがお金を落とすのではなく、JRを背負っているわけですから、東北のみならず、東京からであっても山形新幹線なりを利用して十分来てもらえるいい立地条件にあると思うのです。あとは県内の方も含めてですが、公共のJRなりバスなどを利用して、拠点施設を利用された場合には、何か特典が付くとか、先ほどのお話にあったギャラリーもそうだと思うのですが、いろいろな人が集まれる、そこに行けばいつも何かやっているという場所の提供、そこにはカフェがあったり、展示物があったり、多様な目的で、フルに集えるような場所であつたらいいと思います。そして、夏の暑いときや冬の寒いときには、各家々で冷暖房を使用するのではなく、冷暖房がきいたところをみんなで利用すれば、エコにもつながると思います。出かけて来るのにお金はかかるけど、何か特典があつたりとか、ツアーではないですが、地区ごとに今回は何々市の何々地区とか、お年寄りの方や、色々な層の方をバス等を運行して送迎してくれるサービスを設ける等して、集えるところにして欲しいです。近隣施設やJRとのタイアップが出来るような立地条件をもっと活用して、お互いで赤字だ、どうのこうのではなく、他県からお金を持ってきてもらえるような経営があればいいのかなと思います。

最後に、スポーツ等ですが、霞城セントラルの方にもパブリックビューイングができるものがあると思うのですが、Jリーグも、テレビ放映はスカパーでないと見られないし、アウェーなどでも、会場に行けなくとも、ここに来ればみんなで共有できて応援できるというような場所があつたらいいと思います。県民全体でモンテディオ山形等をバックアップしていくという意識が増して、お金が流れるとかそういったことができないものかと思っています。長くなりましたがよろしく願いいたします。

【貝山委員長】

どうもありがとうございました。やっとお金のお話が出てきて私もほっとしているのですけれども、私専門が経済学なので費用便益分析というのが本当の専門なのです。要するにこういう施設整備をしたときに、どういうベネフィットが発生してどういうコストが発生するのか、それで、ベネフィットとコストを比較してやるやらないを決めていく、そういう方の専門家は一応自称しておりますけれども、この施設整備についての経済効果って言うのが必ず出てくるわけで、芸術文化活動を通じて若い世代がつないでいくというそういう本来の目的もあろうかと思いますが、この施設整備をして皆が賑わう、集

う、そういう場が出来てそれで色々なことが行われて、そこでお金が出たり入ったりいたします。その結果やはり県民の人が潤っていかないといけないのであって、そこをどういうふうに取り入れていくか、お金を稼ぐものをどうやって取り入れていくか、ここが非常に僕にとっては関心のあるところです。実はそうやって金儲けしながら、施設整備の費用を回収していくというやり方は、民間はまさにそうやっているわけなので、そういうことをきちんと考えていかないと、常に県に全部金を出してもらって、税金でやって赤字も税金で埋めるといいうやり方は、今日的な施設整備ではない、と僕は思うのです。次回の議論になろうかと思いますが、そういうところもあわせて考えていただければと思いますが、多分劇場機能だけでちゃんと採算が取れるという事にはならないはずで、色々な方からですね、色々な機能を持たせなくちゃいけないのだ、少なくともいつ行ってもあそこには人がいるという、そういう仕掛けをするためには、一つの機能じゃとても無理な話なんです。例えば今日、アルケッチャーノさんが来てらっしゃいますけれども、あそこに行くと、奥田シェフのあれが食べられる、そういった人は新幹線で東京から山形に来るかもしれない、そういう仕掛けが必要で、実際にこのアンケートの中にも、震災直後ですから、こういう避難場所という機能があればいいな、とか子どもの遊び場託児施設が欲しいなとか、その他にアンテナショップ、それから産直の市場ですか、それからショッピングモール、産直レストラン、飲食店街、こういうものを求めているのです。だから、そういうものをちゃんと一つの箱の中に入れていかないと、要するにイベントがあったときだけは賑わうけれども、イベントが無いときは本当に誰もいない、そういうことになってしまうので、それは西口の商店街さんにとっても、やっぱり常にあそこは賑わいの場で人がいて、ということが必要なのだと思います。

【古内委員】

別な組織で私達は9月9日の日に秋刀魚祭りやったのですけれども、やっぱり人が集まってくるのです。言い方は悪いですけどタダでご馳走するというと、人は非常に集まってくるのですね。1,000名近くの方が集まってくれて、それで凄い賑わったんです。だから、文化施設が出来たところに私達みたいな者がイベントを組んで、秋刀魚祭りをやるよと。秋刀魚祭りをやって、火を燃やす事が出来てアルコールを飲む事が出来て、なんてところがあると、非常にありがたいんです。広場が無いんです。昔は駐車場とかクボタさんの土地があったりして色々なイベントができたのですけれども、本当に大きい土地が無いものですから。文化施設の前とか脇あたりで、イベント広場みたいなものがあってくれたら、非常にありがたいですね。それを今思いました。

【貝山委員長】

アルケッチャーノの齊藤ゼネラルマネージャーがいらっしゃいますので、ちょっとご発言いただけますか。

【齊藤委員】

このような場になかなか来る事が無いものですから、どういった話をすればいいのか、色々資料を頂いた段階で見させて頂いたのですけれども、私どもの方は、山形県というところの食材とか、様々な地域文化、そういったものに恵まれたこの山形県の後押しで仕事をさせて頂いているわけですけれども、今もプロデュースという形で三重県の湯ノ山温泉であったり、淡路島の西側なのですけれども、野島小学校という廃校になった学校をレストランに全部改装してやっているようなところがある。その中で、淡路島の方の例は、パソナグループが行っているのですけれども、社長さんが様々な事業展開なさってしまっていて、淡路島も、少子高齢化であったり、若い人たちの流出だったりという

ことが非常に進んでおり、野島小学校も人口が減ったために廃校になった。このプロジェクトの中では『半農半芸』ということで若い子達がいっぱい淡路島の方にプロジェクトをやるという時に、芸術家の卵の方々、200人ほど淡路島外から呼び込んで、そこで農業をしたり、午前中農業をして午後から芸術活動をしたり、パソナグループの指定する音楽の芸術ホールなどで練習したりしている。資料を持ってきてあるので、後ほど事務局の方に渡したいと思いますけれども。もちろん地元の若い子達の事も大事なんですけども、流出であったり少なくなっているという現状の中で、やっぱり魅力的な地域であったり、建物であったり、活動であったりというのは、外の子たちに興味を持ってもらわないと駄目かなと思うものですから、内と外の二つに発信して、ここ山形の西の方に若い子たちがどんどんどん集まってきて興味を持っていただく。先ほど色々ご意見あった中で、やっぱり地元面白みがない、と言う状況は私達が若い頃からあったのですけれども、色んな情報が東京とか世界とかから入ってきている中で、ここに、山形に来て何かをしようとか何かを買おうとか、何かを見てこようとか、そういったものはまだまだ少ない。もちろんそのための環境作りというのは、今回議題となっている施設の問題っていうのはあると思うのですけれども、ただ施設だけじゃなくて、そこに関わる人たち若い子たち、芸術家の皆さんであったり芸術家の卵だったりっていうのをどうやったらとどめて、とどまっていたよかったですと言わせられるかっていうのを、何か出来ないかと、ここで。淡路島の子っていうか、芸術家の卵の皆は朝農業行って、自分の活動をして、その後に生活もあるので、レストランがあるので、レストランでアルバイトしてみたりパン屋さんでパンを焼いてみたり、一つのものにこだわらず、そういうことを全体的にオールラウンドにやっているんですね。その中で生活も出来るし、自分の目標にも向かっていける、というようなものが色々あるものですから、それをここでも、山形でも出来ないものなのかなと思って今回来てみました。

【貝山委員長】

農業の話が出たので、当然そのお隣の高橋委員にご発言いただきたいのですけれども、どうぞお願いいたします。

【高橋委員】

「農業をやっている身として、こちらに座らせていただいております。農業をしながら文化的に生活が出来たらこんなに幸せな事はなくて、山形県は農業県であるので、当然農業を営む人が多い、でも残念ながら、文化、農民の文化はもちろん持っているんですけどもオペラですとか、演劇ですとか、そういったところとちょっと縁遠くなってしまっているという実感があります。ですので私達や、若い世代が何度も足を運べるようなそういった施設があってくれたら身近になると思います。例えば山形では映画がとても安く見られる、と思ったのが横浜で大学生活をしていたときなのですけれども、東京で8000円のチケットなんだけど、山形だったら5000円だというようなものであれば仙台からでも山形にわざわざ来て旅行をしたりということに繋がるのではないかと、思う。仙台で出来ない公演が出来る文化施設だったら勝ち目があるのかな、と思った事。また、山形はとても広いので、庄内のいいもの、置賜のいいもの、最上のいいもの、がばらけていて、見るには足を、時間を使わなければならないと、なかなか回れないと思います。カフェがあって、そこで各市町村のいいものが実際に使われていて、そこに展示もされていると目にしたものを購入してくれるかも知れないし、新幹線の待ち時間の一時間の間に行ってこられるような場所であれば次に来たときには、聖地である所に、本当の場所に行ってみようとかいうように二回目、三回目と来ていただけるギャラリーがあるといいのではないかと、思いました。

【貝山委員長】

どうもありがとうございます。ギャラリーの話が出たので金委員さんいかがでしょうか。

【金委員】

私は最上郡の舟形町で薫風窯という窯元をやっております金と申します。最近、地域活動として、最上郡内でいろんなことをやっていますので、ここに呼ばれたのかなと思っております。私は、この委員会を最初お断りさせていただいたのです。理由がありまして、正直、ハコモノ構想に反対の意見がありまして、一度お断りさせていただきました。でも今日改めて考えてここにきたら、こういう建物だったらもしかしたらいいのではないかと考え直しました。最上郡で、今、若い子たちがすごくがんばっているのです。どちらかという和最上郡も過疎化が進んでいまして、ハコモノが凄く廃校だ、何だとなってきたして、空いているところが沢山あるのです。そこをどのように活用しようかというので若者が動いているのですけれど、古きよきものを大切にするというのが山形県民のいいところだと思うのです。山形のまなび館とかもそうだと思うのですが、ああいいう良いものを残していく、というこの県民性を施設中にうまくとり入れられないのか、と思います。出来るだけ内容充実したものの方がいいと思うのですが、山形県の玄関口で降りたときに山形県らしさを出すときに、緑が少ないと思ひまして、山形県の良い所は自然豊かなところだと思うので、駅降りて物凄く緑が多かったら、もっと良いのではないかと思います。建物自体は出来るだけ充実した内容で考えていただいて、その周りをもっと私達も行ってくつろげる空間が、出来たら良いのではないかと考えております。

【貝山委員長】

どうもありがとうございます。当然子供も一緒に来るのでしょうから、その遊び場とか託児施設が欲しいとかそういう県民の要望がありますけれども、いかがでしょうか、どなたでもけっこうですから、今の話に関連しなくても結構ですから、どうぞまだご発言なさって無い方、どんどん発言してください。

【野口委員】

山形育児サークルランドという団体をやっております、七日町のナナビーンズの5階で子育ての施設をしております。今回のお話を頂いた中で、駅西という場所を考えますと町全体を考えた中での役割というのが、凄く大きいのではないかと考えているところでした。私も他のこちら側の委員と同じように、ここがなぜこのような状態になっているのか、という事があまり分からない中で参加をいたしましたので、先ほどいきさつの部分を詳しくお聞かせいただいて、本当に私もああそうなのか、勉強させていただきました。その過程を踏まえて、これからどうするか、というのがこの会議の一番の目的だと思います。そのように考えましたときに、やはり20年前の議論をそのまま今回新しく造っていくであろう施設に持ってくるというのは、残念ながら難しいのかなと思っております。先ほどの説明にもございましたが、割と仙台や東京といったところに出かけやすくなっていて、実際に若い世代の人たちがそちらの方に行っているという現状も併せて、なおかつ若い人たちが、山形の文化に誇りを持ってこれからもこの山形で暮らしていきたいとか、山形に愛着を持っていただくということも考えた上でのハコモノなのではないのかと思ったところでした。色々な事を考え合わせてみますと、やはり文化ということが一つのキーワードだとは思ひますので、ホールの的なものは考えていかなければ

ればならないと思うのですが、霞城公園の中にある色々な施設や設備というものも、公園がこれから遺跡の関係で新しく色んなものを建てる事は出来なくなっていきますので、県立博物館とかですね、そういったものが果たしてどこに行くのかというのも県の文化とか教育の部門では非常に重要なことになると思いますので、そういったことも新たに考えていただければ良いのではないかと、思いました。また新拠点施設に要望する機能ということで県民の声というのがやはり貴重な意見としてありますので、これがいくつ実現するかは分からないですけれども、色々な機能を持たせたものという事で、活用を考えていく方が良いのではないかと、思いました。

【貝山委員長】

どうもありがとうございました。それでは続いて櫻井委員ご発言いただけますか。

【櫻井委員】

みんな違って、みんないい…みんな一緒実行委員の櫻井と申します。私は専門家ではありませんので、一利用者、一般利用者としてのお話をさせていただければなと思っております。私どもの活動は、ノーマライゼーションの社会実現に少しでも貢献したいという思いから、活動させていただいております。その立場から少しお話をしたいと思っております。障害者高齢者向けの施設のあり方というか、そういった方達にも対応できる施設であって欲しいと願っております。さきほど、お客様の立場として、「心の栄養補給が出来る場所」という言葉があって、凄く感動しました。誰もが願って良い思いなのではないかと思えます。そう考えたときに、障害のある方も、一緒に楽しめる空間であって欲しいと思っております。今、身体障害者の方の施設というものは当たり前のように普及されておりますが、知的障害ですとか、視覚聴覚障害の方のための配慮というのはどこの施設でもなかなか難しい状況にあるのではないかと、思います。何故そうなのか、まだそういった方達が表に出てこれないのではないかと、思います。どうして出てこれないかという、やはり周りの人の目とか偏見、そういったものが気になるのではないかなど。そこで、そういったものを上手くクリアして、一緒に楽しめる空間といったものを、まだ色々な場所で出来てないと思うのです。そういったところに目を向けていただけないかなど考えております。例えば、色々委員の中で話し合ってきたのですけれども、知的障害の方であっても、うちのイベントの方には沢山来ていただいております。鑑賞している間に大きな声を出したり、ちょっとパニックが起こってしまう事もあります。そういったときに、個人鑑賞スペースがあるとか、何かこう落ち着ける場所があるとか普段から行き慣れている場所があるとか、そういったものを施設の中に組み入れる事は出来ないかと思っております。なかなか普段生活している中で触れる事が無いと思えますので、出来るだけ認知される、皆で過ごせる空間というものを願っているところです。あと一つ、ギャラリーの話がありましたけれども、論点がずれるかも知れませんが、自由ということだったので、障害者の皆さんの事をもっと知ってもらう場として、山形市でもさくらやさん、パン屋さんとか、カフェをされている団体があるかと思うのですけれども、障害をもっているから、という事ではなく、彼らがこだわって作っているもの、おしゃれなもの、おいしいもの、質の良い物ですとか、地元でこうやって頑張っているんだということを、知っていただける空間というか、そういったものも在ると、健常者の方の意識も変わり、障害者の意識も上がっていくきっかけになるのではないかなど、思います。ご家族の方は、外に出て行くのが難しいと考えるのだと思うのです。そういった方が安心して出てこれる設備、専門のスタッフを置くなど、誰にとっても行きやすい、温かい施設であってほしいと考えております。ありがとうございました。

【貝山委員長】

齊藤委員いかがでしょうか。

【齊藤委員】

私は、司法書士をしており、仕事の立場から特に申し上げられる様な事が無いように思うので、一市民としての考えなのですが、私はここ数年駅西に住んでおりまして、駅を利用するときなどは今回議題になっているところを必ず通って駅に行くのです。まずこの話いただいたときに、県民会館がここに出来たら、テルサがあるのにどうしてまた同じようなものを造るのかなという疑問を率直に抱いたんですが、これは今までのお話を伺い、資料を見させていただいて、規模の問題もありますし、現在のところの老朽化というのがありますし、納得できる。造るのであれば大きなものを、しっかりした物を造っていただきたいという思いもあります。ただ一点、現在何も無い空き地として利用されているからこそ、公園ではないですけども、周りの住民の方がよくキャッチボールしていたりですとか、親子で触れ合ったりしているところを目にするので、そういった場所がなくなってしまうのもちょっと寂しい気もすると思ったのです。ですので、敷地内にそういったスペースもあればいいと私は思いました。

【貝山委員長】

どうもありがとうございました。では田中委員さんおねがいします。

【田中委員】

GLY OFFICE の田中と申します。私は山形出身なんですが、現在東京都民です。私たちの組織は山形出身で県外に住む山形愛がある人、言ってみれば県人会みたいなものがスタートなのです。特に若い人、20～30代40代の方、この人達で、ただ懐かしんで山形の芋煮食べて、良いよと言っているだけではなくて、具体的に山形に対して、積極的なアクションを起こしたいと思っている人がかなり増えてきています。震災以降その動きが顕著です。その人達のコミュニティを作って、その人たちが、例えばUターンするなり、Uターンしなくても、県外で積極的にPRする一員になったりとか、自分らしく山形と関わって積極的なアクションを起こせるような環境を作ることをミッションにして、活動をしています。具体的にやっていることと言うと、県外にいるそういう気持ちがある人と、県内をつなぐことをミッションとしています。WEBサイトを運営して、情報を発信したりとか、最初は県人会みたいなレベルで飲み会もしておりますけれど、そういうのでコミュニティ作りをしたりとか、その次に行くと、自分達がイベント企画するとか。本当にここまでいかないにしても、県外にいと山形の情報が薄いので、積極的に話すような場所に関わっていく事によって、Uターンするかしないか、多分仕事無いから無理だねというような話になってしまうので、もっと自分が自分事にして話す機会に参加する事によって、じゃあ私は今後どうやって山形と関わって生きていこうとか、そういう考えるきっかけを作っております。県外と県内を繋ぐという点からいうと、今お話した通り、県外から山形に戻りたいとか、田舎が良いねと言う人が凄く増えていて、100人にアンケートをとったのですけれど、100人中30%の人は、定年後で良いですとか、50代くらいになったら帰れば良いですって言う人がいるのは確かなのです。10代20代30代40代でも結構変わらずにいるのです。必ずUターンします、と言っている人が山形県東京事務所にあるIターン情報センターで、情報発信して救っていると思うのですが、顕在人数は救っているのですけれども、もやもやしている人、そもそも情報が無くて、考えられてないっていう人が実はほとんどで、他県で出している情報によると、県外に流出していった人のうち、3割ぐらいがどうやら帰って

きているらしいというデータがあったのです。そう考えてみると、絶対ではないですけど、4割くらいの人が、もやもやしなながらも結局は帰ってこないっていう状況なんじゃないかなと個人的には思っていて、だから県人会などで山形いいよねって言っている人が凄く多いと思うのです。さっき大谷さんのお話を伺って私もそうだなと思ったのですが、何のためにこの文化施設を造るのだろうって思ったときに、次世代の育成だと思っと思っています。親の世代は、ああしなさいなどと言われていましたけど、経験と多様な生き方をしていると言うのが今の若い人たちは凄く大事だと思っていて、色んな生き方でもう会社にとらわれない生き方で、一人一人がイノベーターになれって言われているわけです。でも全然やり方がわからない、ということがあると思っていて、チャレンジする場というのが一番必要だと思っっているのです。県外の人でいうと、パソコン一台使っって働ける人、クリエイターだったりデザイナーだったりっていう方は移住してきていますし、いきなり車を持ったりできないので、駅西だったらアクセスがいいので、そういう移住しかけている人とか、半農半Xみたいな形でやり始めている人とかが居れるような、起業準備中の人居れる様なスペース、ワーキングスペースが増えていて、単純に場所を切っってシェアオフィスにする形ではなくて、そこから相乗効果が生まれて、新しい何かプロジェクトみたいなのが生まれていくという、コワーキングスペース (Co-working Space) っていうのが最近増えてきているのですが、若者や山形にとって一番大事なことと言うのは、きっと稼ぐ力っていうのを身につけるというのが一番大事なんじゃないか、個の力っていうのが大事なんじゃないかと思っっています。ですので文化施設も話を聞いていて皆さんと同じように必要だというのは感じ、イベントをやるといふのも大事と思うのですが、プラスして、七日町も最近大変だという理由は、働く人がそんなに多くないということもあるんじゃないかと思っっているのです、働く機能もあっって日常的に人が居るといふ状況をつくって、土日だけしか人が賑わっっていないのではなくて、平日の間も人が居るといふ状況にする。働く人を増やすということもやってみれば、西口でお昼ご飯を買う人が増えるとか、打合せに来る人が増えるとか、そういう感じになっていくんじゃないかと思っいます。起業という面で言えば、大阪のNPOでも閉鎖した商店街を使っってチャレンジショップみたいな形で若者の就労支援をやっっていますし、新庄市内だと、なないろというレストランで、日替わりでレストランをやってみたいという若者に場所貸しする事をやっっているのです。今、路上販売とかできないじゃないですか、日本の法律として。

【貝山委員長】

あと二人ご発言いただきたいので、山口委員よろしくお願ひします。

【山口委員】

米沢から参りました、織物を営んでおります。私も皆さん方のご意見をお聞きして、一番最初に、どうして今そんなハコモノをという風に個人的に思っただけですけども、まずちょっとお聞きしたいのですが、震災後東北で、ハコモノを造ったところは被災地も全部含めてあるのでしょうか。東北でもしかすると震災後始めてのこういった大きなハコモノを造る事になるのかと思っただけです。そうすると、それをチャンスにする他無いなと思っって。被災直後に山形が拠点になっていますよね。山形県の支援で、ここが拠点になって山形というのが全国に広まっっていたと思うんですけども、そういうことも踏まえて、震災後だからこそ出来るやり方で、山形らしいハコモノを是非ともつくっていただきたいと思っいます。話が飛躍的ですけども、本当に3.11でゼロになったという考えの方が色んな分野であっただけ思うのですけども、それを糧にしてというかゼロからのスタートだということで、本当に大いに夢を見ていけたらいいと思っいます。

【貝山委員長】

防災機能については次回中心的に議論しようかと思っておりますけれども、最後になりますが、シアターワークショップの伊東委員さんの方からご発言ください。

【伊東委員】

シアターワークショップの伊東でございます。僕はこの施設構想の初期の頃に携わっております、今日皆さんにお配りしている資料の平成11年12月の報告書は、シアターワークショップのコンサルティング業務の資料です。それを作ったのが私です。時代の流れを追っていきますと、当時の文化施設、公立文化施設という言い方がありますが、これは劇場ホールを指す言葉なのです。文化イコール舞台芸術を上演する場所、というのが一般的な考え方で、そこにちょっと矛盾があると思います。文化施設と、文化芸術の上演のための施設というのはイコールではない。文化のほうはずっと幅広いものを指すはずなので、今回はそこに戻って良いのではないかと。当時で言えば、計画していたものは舞台芸術のための総合センター。上演する場所があり、練習する場所がある。そこに集中しましょう、ということで計画が練られていました。ですから、プログラムはそうなっていますし、そこで決まっていた面積と予算という枠がありますから、今回見直しをするときに、そこが外れるかどうかです。当時から新国立劇場などに代表される様な舞台の物凄く大きなものは考えていませんでした。縮小してこれだけは絶対必要なんだ、という所までコンパクトにして計画しています。もし、今みなさんがおっしゃっている施設、絶対必要だと思うのです。ですけどそれを入れようとしますと、今の面積では絶対に入らないです。そうなったときに、ではその予算が増えるのかどうか、又は、議長の先生がご専門のPFIなど、他の手法を使う事によって、その面積が増やす事ができるかです。そういったことを考えていかないと、この計画がこの先なかなか進まないのではないかと考えています。日本の住宅って、晴れの場であり曇りの場である。つまり日常的な施設であって、非日常的な施設でもある。つまり一つの空間を如何に多様に使うかという事なんです。舞台は舞台としてだけしか使えないのか。これは立派な練習室になる筈なんです。ホワイエっていう空間も昼間は全然使ってないですよ。でもあの大空間もったいないじゃないですか。だったらあそこをギャラリーにするとか、色んな事を考えながら空間を使い倒す、使い切るという事を考えていって、如何に時間軸の効率化を考えるか。稼働率とっているのもちょっとまやかしかあって、一日一時間でも使えばその日は使った事になっている、というのが普通なのですね。そうじゃなくて如何に稼働率を上げていくか。そのためには昔は建築というのは機能があって使い方もあった。これが一対一の関係だったのですが、今やそうではないのです。その空間を工夫して色んなことに使っていくという事を考えていかなければならないのかな、それをまさにこの場所で提案していくことが、今後の課題なのかなと。もう一点、これは県の施設なのです。ですから、あのエリアのための施設でもあり、山形市内の施設でもありますけれども、実は県域全体を考えなきゃならないという事なのです。そのための役割というのをもた出てくるのかな、となると日常的に利用しない人に対してどうサービスを考えていくのかという事をも一つの大きな課題なのかなと思っております。

【貝山委員長】

どうもありがとうございました。予定の時間が来ましたが、皆さんから非常に色んなご意見いただきました。今日は文化施設の機能ということに絞って少し私の方で整理をさせていただきますが、何故今ハコモノか、という当初そういう疑問が私も多少ありましたけれども、皆さんのお話を聞いて、得心するところがございました。芸術文

化活動をずっと継続してやっていく、それは次世代も育成していくという、そういう流れの中でやっていかなくちゃいけない時に、実は世界一日本一のそういう芸術文化活動に接する機会を、そういう設備が無いために山形県民は失ってきたんだということですね、これは失う事の無いようにしようじゃないかという、有体に言えば1800席か2000席か分かりませんが、その程度の規模のホール、劇場が必要なんだという事がよく私とて分かりましたし、同じ造るんであれば山形テルサがあるわけですから、あれと同じものを造ったってしょうがないわけで、あれを上回るものを、あの機能を補完するあるいは逆に、山形テルサがその機能を補完するようなそういう関係にならなくちゃいけない、という事です。それが皆さんの中で共通理解としてあるという気がいたします。それから、あそこは山形の玄関口で、ホームに降り立って西を見たとき、ああ良いものがありますねー、山形らしいねーっていう、そういう事を感じさせる必要があるんだろうと思います。それは建物の山形らしさと同時にコンテンツの中身の方の山形らしさ、これは両方出していかないと、やっぱりいかんという事なんだろうと思います。そういう意味で、今後、どうやったら山形らしさを出せるのかという事も、少し議論できたらと思います。それから、あえて纏めはいたしませんけれども、多機能型の施設というのが大方一致するご意見だったように思います。要するに、常にあそこに行く人がいる、賑わっている、というそういうことが必要なだろうということです。色々な知恵を絞って、どうしたらそういうものが出来上がるのだろうと、文化施設というものを中核にしながら、どういうものを持たせるべきなのかっていう事、二回目で、またご披露いただけるものと思います。当然3.11の震災を踏まえて、震災から我々学び取った知見、それをちゃんとあの中に入れていくという、そういう事も必要となってくるだろうと、そうやって山形らしさを出していくという事なのかも知れないです。後半皆さんに、時間が不足するために、発言を遮ってしまったことを大変申し訳なく思っています。次回はこういうことの無いように気をつけて議論をしたいと思っております。

【園部委員】

最後に発言をさせていただいて申し訳ないのですが、この構想を進める上で今、貝山先生が仰ったように、山形テルサがそこにあるという事で、おそらく県民の方には、テルサがあつてまた造るのか、という思いが非常にあると思うんです。テルサ同様に、霞城セントラルビルにも相当な施設があるわけですから、そういうものが重複するのではないかという感じを持たれる方も多いと思いますので、テルサとセントラルビルとの連携をきちっと進めていかないと、なかなか納得していただけないのではないかと思います。例えば、山響の立場で言いますと、東京の施設であれば、同じ施設に、大ホールがあつて、中ホール、小ホールがある、というようなものがありますが、山形ではそれが難しいので、この施設には大ホールがあり、中ホールはテルサがありますよと。そういう事になれば、東京と同じようなイメージで使えるという事もありますので、その関連をよく説明していただけるような資料を作っていただければありがたいと思います。

【貝山委員長】

はい、大変良いご発言を頂きましたので、この3つの施設、その他にもあると思いますが、これが一体的に関連しあつて利用されるという事を常に意識しながら考えていかななくてはならないと私も思います。さっき事務局の説明で、年間一億五千四百万円のお金を失っている、という外部監査からの指摘の話がありました。どういうことかというのと、本来あの土地をちゃんと人に貸せば、一億五千四百万円のお金を稼げる。放置してきたのは、県民にとっては大変な損失なのです。子供達がキャッチボールする場で良いのだということも一つの考えかもしれませんが、県政がそういう形で本来収入を

上げられるところが上げられないでいるということ、様々な事情があつてこの計画が頓挫したかと思ひますけれども、やはりこれは長引かせてはいけない、と私は経済学者として思ひますので、そのためには県民にちゃんと説明をして、納得いただけるものを作つていかなくちやいけないということで、事務局の方でも二回目に向けてまたご検討をいただきまして、新しい提案があつたらまたしていただければと思ひております。次回は都市拠点施設としての機能、それから防災機能などを中心にご議論いただきたいと思ひます。今日の議事はこれで終了したいと思ひます。どうもご協力ありがとうございました。

以上